

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：33906

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12283

研究課題名（和文）中国の「内部発行」制度による日本文学の流通と受容

研究課題名（英文）Distribution and Reception of Japanese Literature through China's "Internal Publication" System

研究代表者

尹 シセキ (Yin, Zhixi)

椋山女学園大学・外国語学部・講師

研究者番号：80761410

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：「内部発行」は、冷戦期の中国において、公に流通できない書籍を翻訳・出版し、限られた読者に提供するシステムである。本研究は、「内部発行」によって中国語に翻訳され、中国で流通していた日本文学を網羅的に調査し、書誌情報や概要、出版・流通の経緯を含め、資料集を作成した。その上で、松本清張や三島由紀夫など作家を具体例として取り上げ、個々の作品がどのように翻訳され、同時代の日中関係において意味を付与されていたかを考察した。こうしたアプローチを通して、冷戦期の日中間における「日本文学」の越境と移動、枠組みの再生産を解明し、日中文化関係史の知られざる一面を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「内部発行」によって中国で出版された日本文学の全体像を提示し、冷戦期の日中文化交流における重要な側面を明らかにすることができた。これらの書籍は、冷戦期日中間の政治的緊張や歴史認識の齟齬を理解する重要な手掛かりであり、また現在の中国における日本認識にも深くかかわっている。日中戦争をめぐる多様な言説が並行し、そこから新たな政治的緊張が生まれ続けるいま、本研究は歴史的経験を提示し、日中間の相互理解に寄与することが可能である。

研究成果の概要（英文）："Internal publishing" was a system used in Cold War China to translate and publish books that could not be distributed publicly and provide them to a limited number of readers. This study conducted a comprehensive survey of Japanese literature translated into Chinese and distributed in China through "internal publishing," and compiled a collection of materials, including bibliographic information, summaries, and publication and distribution histories. It then focused on authors such as Seicho Matsumoto and Yukio Mishima as specific examples, examining how their works were translated and given meaning in Sino-Japanese relations. Through this approach, it succeeded in presenting an unknown aspect of the cross-border movement of "Japanese literature" between Japan and China during the Cold War.

研究分野：日本文学

キーワード：内部発行 冷戦 日本文学 松本清張 三島由紀夫 はぐるま座 文化大革命 日中関係

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者の博士論文「日中大衆化社会と 事件の物語 「松本清張ブーム」の比較文化論」(名古屋大学、2016年)の成果を踏まえ、博士論文では部分的に論証した「内部発行」の問題系を、より網羅的に考察したものである。「内部発行」は、書籍を市場において公に出版するのではなく、本来流通が禁じられている書籍を、限られた読者に提供するために刊行され、「内部的」な流通ルートで販売することである。1960年代から1980年代初頭にかけて、多くの日本文学も「内部発行」の形で中国語に翻訳され、読まれていた。申請者は博士論文の執筆中に「内部発行」の書籍に気づき、その全貌を解明するために、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究は、主に二つの目的がある。

一つは、「内部発行」によって中国語に翻訳され、中国で流通していた日本文学を網羅的に調査し、書誌情報や概要、出版・流通の経緯を含め、資料集を作成することである。それによって、冷戦期の日中文化交流史の新たな一面を明らかにすることができると思う。

もう一つは、松本清張や三島由紀夫など作家を具体例として取り上げ、個々の作品をめぐる「内部発行」と同時代の外的諸要素、いわば国家権力や冷戦イデオロギー、日中作家訪問活動と書籍交換のネットワークなどとの相関性を考察する。こうしたアプローチを通して、冷戦期の日中間における「日本文学」の越境と移動、枠組みの再生産を解明すること、またその過程に内包された政治性を分析することが可能になる。

3. 研究の方法

本研究は、上記二つの研究目的にしたがい、(1)新たな資料を発掘と整理、(2)テキストを同時代の文脈に還元して分析するという二つのアプローチを行った。

(1) 新たな資料の発掘と整理

研究期間中に、日本と中国の古書店を通じて、「内部発行」で刊行された日本の書籍をできる限り収集した。購入できないものについては、国立国会図書館関西館および中国国家図書館、上海市図書館などの公共図書館で調査し確認した。単行本として出版されたもの以外、上海で刊行されていた内部発行専門雑誌『摘訳』も、上海での出張調査を行う際に、古書店から購入し、研究室に収蔵することができた。

中国への出張調査は主に2019年度までに行ったものであり、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症のため、渡航が不可能となったため、まだ視野に入っていない資料もある。本研究で収集した「内部発行」資料は、1960~70年代における日本文学の「内部発行」の全体像を概ね示すことができる。

その中から、日本文学に関するものを選び、書誌情報の一覧を作成し、単著『社会派ミステリー・ブーム』の資料編として公開している。

(2) テキスト分析

研究期間中に、松本清張や三島由紀夫、夏堀正元、劇団「はぐるま座」など、いくつか具体的

な事例を挙げ、「内部発行」において中国語に翻訳されたこれらの作家のテキストを、同時代の文脈において分析した。基本的には、日中の政治的緊張や思想状況、歴史認識がどのように作品の選別と翻訳に影響を与え、またテキストの流通がどのように日中関係に寄与していたか、という二つの方向から考察を行った。

また、当初の計画では予想していなかったが、2022 年度以降には、デジタル・ヒューマニティの研究手法に関心を持ち、コンピューターを利用した文学研究の試みを始めた。2022 年度以降は、その基礎データとして、書籍資料の電子化作業と整理を継続的に行った。

4．研究成果

2018 年度から 2020 年度までは、日本国立国会図書館や中国国家図書館「数字図書館」、データベース CNKI、古書市場「孔夫子」、さらに日本と中国各地の古書店を通じて、「内部発行」で刊行された書籍を網羅的に調査し、書誌情報のリストを作成した。加えて、1960～80 年代の日本文学関係者、とりわけ「内部発行」に深く関わった作家や翻訳家、文化人についても調査を進めた。また、三島由紀夫『豊饒の海』四部作の「内部発行」本など、希少な資料を取り寄せ、収集することができた。

事例研究として、松本清張『日本改造法案 北一輝の死』(南京大学、1972 年)や小松左京『日本沈没』(人民文学出版社、1975 年)、夏堀正元『北の墓標 小説郡司 大尉』(江蘇人民出版社 1977 年)の「内部発行」本を比較し、1970 年代中国の「日本軍国主義」批判、そして「ソ連修正主義」批判キャンペーンの中で、これらの作品が付与された意味を分析した。ほかに、山口県下関市を拠点とする劇団「はぐるま座」の中国訪問を調査し、劇団が中国各地で作品を上演する過程や、内部発行専門誌の『摘訳』によって『野火』『春雷』『沖縄の朝』などの作品が翻訳される経緯、とりわけ上演と翻訳の際に生じた検閲の問題を明らかにした。

「内部発行」本ではないものの、同時代の重要な関連作品として、森村誠一の「731 部隊」シリーズが中国に翻訳された経緯を検証することによって、1980 年代中国の「軍国主義批判」と戦争認識の状況を明らかにした。

2021 年度以降は、デジタル資料を最大限に利用し、計量分析の手法で「内部発行」の日本文学、および 1980 年代以降に「公開出版」の日本文学に対する受容状況を考察した。具体的には、例えば中国最大の読書サイト Douban に掲載された松本清張の作品情報や、読者評価数、読者レビューなどのデータを収集し、KHCoder などのソフトを用いて解析し、20 世紀以降の読者が持つ様々な傾向を解明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 尹シセキ	4. 巻 23
2. 論文標題 二〇〇〇年以降の中国における松本清張の受容：Doubanの読者レビューをめぐる計量分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 松本清張研究	6. 最初と最後の頁 26-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尹シセキ	4. 巻 増刊号
2. 論文標題 文潔若	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『野草』（中国20世紀自伝回想録改題集）	6. 最初と最後の頁 210-211（仮）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尹シセキ	4. 巻 9
2. 論文標題 一切の害虫を退治せよ - 連環画による悪役の描き方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 YIN Zhixi（尹シセキ）
2. 発表標題 Representing “Cultural Exchange” : Haguruma Za 's Visit to China during the Cultural Revolution
3. 学会等名 AAS-in-Asia 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 YIN Zhixi (尹シセキ)
2. 発表標題 Dynamic Positionality of Japanese Literature: Translation and Interpretation of Mishima Yukio in China
3. 学会等名 The 3rd EU-Japan Young Scholars Workshop/ International New Generation Workshop (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尹シセキ
2. 発表標題 一切の害虫を退治せよ - 連環画による悪役の描き方
3. 学会等名 連環画研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尹シセキ
2. 発表標題 二・二六事件の記憶化をめぐる攻防 松本清張『日本改造法案 北一輝の死』、三島由紀夫、社会主義中国
3. 学会等名 シンポジウム「社会主義文化のネットワーク - 日本、中国、ソ連、そして東欧」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尹シセキ
2. 発表標題 中国における日本文学の「内部発行」 軍国主義批判と三島由紀夫
3. 学会等名 第7回東アジアと同時代日本語文学フォーラム
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 尹 シセキ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 292
3. 書名 社会派ミステリー・ブーム	

1. 著者名 尹シセキ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 288
3. 書名 社会派ミステリー・ブーム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------